

令和2年度 第3回柏崎市介護保険運営協議会（議事要旨）

- 1 開催日時 令和2（2020）年11月12日（木） 午後3時～午後5時
- 2 開催場所 健康管理センター3階 集団指導室
- 3 出席者 <委員>…16名
高木委員長、桑原副委員長
高野（美）委員、黒崎委員、栗林委員、砂塚委員、高德委員、阿部委員、重田委員、石黒（仁）委員、山田委員、金子委員、高桑委員、高橋委員、石黒（敬）委員、高野（け）委員
<アドバイザー>
丸田先生
<事務局職員>…13名
柴野福祉保健部長
介護高齢課：齋藤課長、土田課長代理、金子課長代理、畠係長、荒川係長、金子係長、早川係長、泉係長、石田主査、村田主任
健康推進課：品田課長、竹内係長
（株）ぎょうせい
欠席者 村田委員、金泉委員、吉田委員
- 4 会議資料
 - ・会議次第
 - ・柏崎市高齢者保健福祉計画第8期介護保険事業計画【素案】
 - ・当日資料1 日常生活圏域の概要
 - ・当日資料2 第7期 介護人材確保の取組実績
 - ・当日資料3 「介護人材の確保と業務効率化の取組強化」実施事業
 - ・参考資料 介護職イメージアップに係る広報特集記事
- 5 議 事 柏崎市高齢者保健福祉計画第8期介護保険事業計画素案の審議について
- 6 会議内容
事務局である介護高齢課長が次第に沿って会を進行する。
 - (1) 開 会
福祉保健部長が挨拶
 - (2) 新任委員挨拶
新たに就任された高德委員から御挨拶いただく。
 - (3) 議 事

高木委員長が挨拶をし、議事を進行する。

ア 第1章 計画の策定にあたって

第2章 高齢者（被保険者）等を取り巻く現状と将来推計

素案及び当日資料1に基づき事務局が説明した。

(事務局)

配付した素案に不備があった。当日資料1として配付した「日常生活圏域の概要」については事業計画に必ず記載しなければならない内容になるが、これが抜け落ちていた。本日お配りした資料は第7期のものだが、これを第8期の内容に修正した上で、第1章の最後に追加する。

【質疑応答】

(委員長)

6ページ(1)総人口の推移と推計の記載で、「老年人口は概ね増加傾向となっており、こうした傾向は令和7(2025)年まで続く見込み」と記載されているが、データから見ると令和4(2022)年がピークではないか。

(事務局)

御指摘のとおり記載誤りであった。修正する。

イ 第3章 第7期計画の取組

第4章 基本体系と基本目標

素案に基づき事務局が説明した。

【質疑応答】

(A委員)

43ページ「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで」の最後は最期が正しいのではないか。

(事務局)

御指摘のとおり。修正する。

ウ 第5章 施策の展開 1いつまでも健やかな生活を送るための施策の推進

素案に基づき事務局が説明した。

【質疑応答】

(委員長)

コロナウイルス感染症の感染対策の観点から、コツコツ貯筋体操や暮らしのサポートセンター等、高齢者が集まり、密になるような活動について、見直しと感染症対策について計画への反映が必要ではないか。

(B委員)

くらしのサポートセンターでは、感染症対策として、検温、手洗い、問診を行っている。感染症対策については、専門の方から指導をいただきたいと感じている。

(事務局)

新型コロナウイルス感染症については、今回策定する計画の事業年度である3年度間で収束するかは定かでない。また、新型コロナウイルスのみならず、インフルエンザや新たな感染症の流行も懸念される。御指摘いただいた部分は大変重要な視点であるため、主要施策「高齢者の健康づくりと介護予防の推進」の施策の方向性の中の④として、医療専門家の適切なアドバイスのもと事業を実施していくことについての記載を追加したい。

(事務局)

感染症対策については、国の基本指針で災害や感染症対策に係る体制整備について、任意記載事項として示されている。今回、この基本指針を踏まえ、第7章 サービスの円滑な提供を図るための事業に盛り込んだ。御指摘の事業実施にあたっての感染症対策について第7章で詳しく記載するか、部長が申し上げた主要施策の部分で記載するか今後検討していく。

(委員長)

感染症対策については、次期事業計画に反映が必要な事項と思われるので、是非お願いしたい。

エ 第5章 施策の展開 2 住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らせる地域づくり

素案に基づき事務局が説明した。

【質疑応答】

(B委員)

運動サポーターとして10年間携わってきた中で、数名の運動サポーターの方が認知症で辞められた。「コツコツ貯筋体操」を含め、高齢者の身近な「通いの場」は認知症予防にもつながると記載があるが、通いの場というだけではなく、認知症予防のための取組が必要ではないか。

(A委員)

くらしのサポートセンターについては、コミュニティの単位で設けられているが、コミュニティセンターのセンター長や会長の意向で左右される現状がある。市のコミュニティ担当課に相談しても関係課との連携がとられていないように感じる。地域ケア推進会議等で庁内の連携を図っていると思うが、計画の中でも関係課の連携強化について記載してほしい。

(事務局)

現場の職員が苦慮されていることは承知している。地域における様々な活動がスムーズに進めることができるよう関係機関との連携は更に深めていく必要があると考えているため、御指摘いただいた部分は追加することとしたい。

オ 第5章 施策の展開 3 誰もが必要な介護・福祉サービスを受けられる環境の充実

素案、当日資料2、当日資料3、参考資料に基づき事務局が説明した。

【質疑応答】

(副委員長)

介護人材不足は、全国的な課題であると認識している。柏崎市では、補助制度やイメージアップで介護人材確保を支援していることは承知した。柏崎市の補助制度が充実しているのは、隣接市

町村よりも介護人材が逼迫しているからなのか。介護人材の不足量について県内他市町村と比較する客観的データはあるのか。また、介護付き有料老人ホームについて、柏崎市の高齢者が、上越市や長岡市の介護付き有料老人ホームに入居するケースがあると聞いているが、柏崎市で不足しているのではないのか。

(事務局)

比較データはない。新潟県の会議では、特に中山間地域の不足が顕著だが、全県的に不足しているとの説明があった。補助制度については、他市町村からの問合せがある状況であり、先駆的に取り組んでいると考えている。介護付き有料老人ホームについては、初期費用等が必要であり、入居を希望される方が施設を選んで入居するため、たまたま他市の施設を選んだ結果と推察する。人口規模等から考えると、介護付き有料老人ホームは充足している。

(C委員)

介護職員の給料については、処遇改善加算等により改善されていると感じる。介護人材不足は、給料よりも事業所の介護の仕方に問題があるのではないのか。介護の職場に就職したけど大変、楽しくないなど介護の仕事に魅力を感じられないのではないのか。事業所の取組を紹介しながら、働きたい職場環境づくりを進めてはどうか。

(副委員長)

ふれあい給食の計画値が280人という数値の根拠は。

(事務局)

第7期の実績値等から勘案した数値となっている。

(副委員長)

ふれあい給食事業は、柏崎市社会福祉協議会が実施している事業だが、情報共有は図っているのか。

(事務局)

計画値については、情報共有したものではない。

(副委員長)

高齢者用冬期高齢者住宅ひだまりについても、利用希望者がいないことは承知しているが、定住促進など有効活用してほしい。

(D委員)

救急医療情報キットの計画値が300人となっている。単身高齢者は増加傾向だが計画値を上げる必要はないのか。

(事務局)

救急医療情報キットは、包括支援センターや家族からの申請が多く、最近では町内会での取組も見られている。救急隊の出動時の活用事例も増えている。単年度の配布としては300人としているが、延べ配布者数は年々増加していくと考えている。救急医療情報キットではなくても、必要な情報を記入したものを準備しておくことも有効である。

(D委員)

医療と介護の連携は欠かせないものである。単身高齢者で、意思表示が困難な方へ有効な手段である。広く進めていただきたい。

カ 第6章 介護保険サービス事業の展開

素案に基づき事務局が説明した。

【質疑応答】

(E 委員)

前回の介護保険運営協議会でも介護現場の人材不足について伝えてきたところである。8期計画で施設整備を行わず、人材確保に注力する方向性に対し、介護現場の職員としてはありがたいと感じるところである。

(F 委員)

介護保険制度開始前は、措置制度であり、少ない施設に多くの入所希望者がいる状況により介護の質が上がらないという課題があった。介護保険制度の開始により、入所希望者が施設を選ぶため、介護の質の向上が図られ、質の悪い施設は淘汰される仕組みが創られた。8期に施設整備が行われないことで、施設の枠に対し、多くの入所希望者がいる状況が生じ、介護の質の低下が懸念される。ケアマネジャーや市が介護サービスの質を低下させないようにチェックしていく必要があると思われる。

キ 第7章 サービスの円滑な提供を図るための事業

素案に基づき事務局が説明した。

(E 委員)

居宅介護支援事業所連絡会の中で、「医療職をはじめとした関係職の連携・協働を意識した活動を目指して」との記載がある。様々な職種がある中で医療職を抜き出した意図は。長期入所施設連絡会は、これまでは必要時に開催されていたようだが、それを継続するのか、それとも、今後定期的に行っていくか、どちらの意味合いか。

(事務局)

関係する職種の連携や協働が必要であるという意図であるが、記入方法等について検討する。長期入所施設連絡会については、今後は必要時のみでなく、定期的に行っていくことを検討していくという意味合いで記載している。

ク 第8章 第5期介護給付適正化計画

素案に基づき事務局が説明した。

質疑なし

ケ アドバイザー丸田先生からの講評

- ・新型コロナウイルス感染症を含む感染症対策を介護保険事業計画に盛り込んでほしい。県の計画にも盛り込んでいる。介護サービスの質の向上が、新型コロナウイルスの感染リスクを下げることにつながる。
- ・介護人材不足については、どのサービスでどの職種がどれだけ不足しているのかという検証が行わ

れていないのが現状。医療福祉大学の400名のうち、約80%（300人）が医療、介護、福祉関係に就職している。そのうち約20%が介護関係に就職している。1自治体で解決できる課題ではない。また、給与だけの問題でない。構造的な部分であり、その議論をしていかないといけない問題である。

- ・計画値については、実績値なのか目標値なのかの説明、注釈があると市民の方が理解しやすいのではないか。
- ・課題、施策の方向性、実施事業の整合性がとれているか、再度検証が必要。つながりが見えないものが散見される。
- ・第8期計画からの新しい施策については、注釈があると市民が理解しやすくなる。

（委員長）

他に質問意見がなければ、柏崎市高齢者保健福祉計画第8期介護保険事業計画素案を承認してよろしいか。

※一同承認

（4）その他

事務局より、委員報酬等の支給と次回協議会の開催日（2月上旬）を案内。

（5）閉会